

## 第1回魅力ある県立学校づくりに向けた懇話会について

### 1 開催日時・場所

令和3年8月3日（火） 13:00～15:20  
於：教育委員会室

### 2 出席委員

鳥丸委員，萩野委員，廣瀬委員，前田(晶)委員，山本委員，  
久永委員，福留委員，岩越委員，前田(光)委員，川島委員，  
太田委員（全委員出席，廣瀬委員と山本委員はオンライン参加）

### 3 議事の主な内容

#### (1) 会長等の選出

- ・萩野委員を会長に，鳥丸委員を副会長に選出

#### (2) 意見交換（国の高校教育改革と本県県立高校の状況を説明後，自由に意見交換）

#### 【主な意見の内容】

- 離島や中山間地域の地元で頑張りたいという生徒にとって，高校の選択肢は少ない。そこで学ぼうとする生徒に，魅力や意欲を持たせるために，ICTを活用するのはよい取組。一方で，他の地域では，多様な学びに対応できるよう，いろいろな高校があった方がいい。
- ICTを活用した授業は，離島や中山間地域で学ぶ生徒にとって，地理的な格差の平準化につながるものと考えている。
- ICTが十分に活用できれば，県内どこからでも同じように幅広い選択肢の中から生徒の実態に適した教育を受ける環境が整う。これは普通科だけでなく，専門学科も同じ。この取組は少人数で学びたい，自然豊かな土地で学びたい，という子供たちのニーズにつなげることもできるのではないか。
- 国のオンライン授業の受講者が40人以下という制限はない方がいい。
- 今の公立高校に魅力がないか，といえばそうではない。それぞれの高校で特色がある取組をしているが，中学生にも届くように

しっかりと発信されているか、が問題。

- 高校の魅力化を考えるには、まず、中学生や保護者がどのような高校を望んでいるか、を把握する必要はないか。今後アンケート等もしてみてもどうか。
- 保護者の理想としては、いろいろな選択肢の中から、子供が将来の夢から高校・学科を選ぶことだが、現実的には、中学段階で夢を見つけきれず、高校で自分の進路を考える子供も多い。高校に特色を持たせるのは大事だが、特色が際立ちすぎても子供たちは迷うのではないか。ゆっくりと将来を考えるための「普通」の高校があってもいい。
- 中教審の答申では、普通科改革で特徴のある普通科の開設を示しているが、学科を新たに設けなくとも、学校の裁量が比較的高い、総合的な探究の時間を活用して、工夫した取組でカバーできると考えている。
- 私立高校にない農業科や水産科などは、今後も公立で頑張ってもらいたい。
- 地域と高校の関係を考えると、地域に根付いた高校をどう育てていくかが重要。
- 高校はこれからの地域を支える人材を育成する機関。本県の基幹産業である農水産業や観光業に従事する人材を育てるために、高校はどのように取り組んでいくか、が重要。
- 中教審答申に「高校の福祉的機能」も触れており、居場所としての高校も大切。一方、学力定着にしっかり取り組むことも重要。
- 高校標準法で、1クラス当たりの定員が定めているが、少子化に伴い、見直しも必要ではないか、と考えている。
- 公立高校の推薦入試では、推薦する中学校側の基準が厳しく、ほとんど出願がない学校が多い。普通科と専門学科でやり方を変えれば、高校独自のやり方を検討する等の方法があってもよいのではないか。